

令和7年度 第3回
国府地域振興未来会議議事概要

日 時：令和7年8月28日（木）10時～11時40分

場 所：国府町総合支所 第1会議室

出席委員：山田一孝、前岡美華子、倉持裕彌、福田克彦、長尾隆基
矢芝好美、福田大輔、岸田玲子、池谷有希

事務局：須崎支所長、藪下副支所長兼地域振興課長、吉田産業建設課長
植村市民福祉課長、石原地域振興課長補佐

◎会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告・協議事項
 - (1) これまでいただいたご意見について 資料1
 - (2) 令和7年度国府地域未来プラン実施計画の概要・進捗状況について
. 資料2
 - ・地域資源を活かした賑わいづくり
 - ・持続可能な地域づくり
- 4 閉会

【概要】

3 報告・協議事項

- (1) これまでいただいたご意見について . . . 資料1

事務局より資料1について説明

〔委員〕 「国府の人は国府を観光地として人を増やしたいと思っているか」について、住民の意見を反映した取り組みや方向性ではないと思う。市としての考えであって、国府の人がどう思っているか、住民の意見をもう少し聞いていく必要があるのではないかと思う。

教育環境の適正化について、国府東小だけの問題ではなく宮ノ下小学校と国府中学校全体の問題だと思うので、全体として考えてほしい。岩倉小の校区再編の時は、あおば地区の自治会には話がありアンケートをとったのだが、ほぼ決定となった状態でPTAとかに話がおりにきた。それはどうかと思うので、国府町全体として考えて、検討会をしてほしいと思う。

〔事務局〕 初めのご意見については、確かに地域住民の声を反映した回答とはなっていないが、地域の声をどのように拾っていくかは今後の課題と思っている。

教育環境については、国府東小学校の今の現状を踏まえて地域や保護者がどう思っているかという話の中で、そこから広げて宮ノ下小学校も入れて、最終的なゴールとしては全体の組織を立ち上げるというような流れになっている。まずは検討組織を立ち上げるうえで、地域の方がどう考えているかという聞き取りをしたいというところから入りたいと考えている。

〔委員〕 その地域限定ではなく、幅広く意見を聞いてほしい。

〔委員〕 大阪と東京での観光情報説明会商談会というのは、市の職員が行くのか。

〔事務局〕 観光コンベンション協会が参加されるので、国府町みどころ観光マップを提供しPRをお願いした。

〔委員〕 持続可能な地域づくりで人口増に係る施策というのは当然行政も打って出られると思うが、そこに実際に住んでいる人が地域でどうかかわるかの部分については自治会任せなのか。

〔事務局〕 行政としてそこに何らかの施策を展開するというのはなかなか難しい。

〔委員〕 地域おこし協力隊が来ていて、人脈を生かして様々な活動を展開しているところだが、新しく来られた方をサポートしたり、地域とのつながりをもっていくための仕組み作りということが果たすべき役割かと思っていて、そのような準備をしているところ。自分が外から来て思うことがあるので、そういうことを発信していき、選択肢がたくさんあればいいと思う。

〔委員〕 地域おこし協力隊の活動がなかなか浸透しづらいところがあると思ってみているが、その辺りは行政としてのサポート体制はどうなっているのか。

〔事務局〕 地域おこし協力隊任せではなく、市として伴奏していくものであり、積極的に支援したい。

〔委員〕 地域おこし協力隊業務は行政の一つの施策なので勝手な事ができず、支所に確認しながら行っている。担当職員を付けてもらっているし、毎月報告もしている。

（２）令和７年度国府地域未来プラン実施計画の概要・進捗について・・・資料２ 事務局より資料２について説明

〔委員〕 イベントの支援だったり、補助している事業はある程度の規模のものだと思うが、地域の人がちょっと集まって「イベントしてみようか」となった時に10万円とか20万円とかでも補助いただけるものがあったら、小さなイベントがあちこちでできて、その中から大きなものがでてくるかもしれないし、大きなイベントだけではなく、いろんな人がいろんなことをやっているというのが賑わいに繋がると思う。そんな小さなイベントに対する補助の仕組みはあるか。

〔事務局〕 市や県の補助金を以前は大茅地区や谷地区で活用されたことがあり、県としても積極的に使ってほしいとのこと。急に地域がイベントをやりたいと思っても、必要な財源の確保が難しいところであるし、もっと気軽に使える財源があればと思っているところである。

- 〔委員〕 気軽に活用できるものがあればいいのと思う。いろんなことをされた方はとりあえず市に相談しようという意識があるが、若い人は特に具体化の認識がなく、とりあえず市に相談したら助けてくれるのではないかという意識が良くも悪くもないように感じる。こういう支援しています、こういうイベントしていきましょう、というようなPRを知ってもらえたら、何か生まれてくるのではないか。
- 〔事務局〕 地域の皆さんが使えるような補助金があればPRしていきたい。補助金の趣旨としては、継続的に出すものではなく、立ち上げの支援的なものであり、最初立ち上げてから3年ほど軌道に乗るまで補助し、その後は自分たちでそのイベントが運営できるようにしてくださいというものである。補助金だよりですっとイベントをするというのではなく、自分たちでどうしたら持続的なものになるのかをまず考えていただくのが重要。
- 〔委員〕 継続はもちろん大事だが、間口が狭いというか、ハードルが高く感じる。
- 〔委員〕 花づくりは今年度で終了か。
- 〔事務局〕 3年経ったので一応終了。応募団体も特定の団体のみとなっている。他にも似たような趣旨の事業がある。緑化協会が行っている事業を活用する方法もある。このまま事業展開をしていく必要があるか検討した結果、3年で終了としている。
- 〔委員〕 例えば、今のままでもこれまで応募された団体は除くなどの条件があってもよかったかも。もう少しこの事業をするのにハードルは高くないと思う。
- 〔事務局〕 緑化推進となっているが、地域コミュニティの場を提供するのも目的である。どのような形で支援できるか、今後については行政の課題かと。
- 〔委員〕 大前提として、項目1とか3とかにあるイベントとかは、外から人を呼びたいというのが大まかな目的でいいか。
- 〔事務局〕 交流の促進は大事だし、地域に根付いた文化を継承していくことも大事だと考える。実際に今ある事業に少し色を付けながらやっている現状。
- 〔委員〕 イベントをして外から人を呼んでも、そのあと結局帰っていく。次に来たとしても、結局「楽しかったな」で見て帰るだけで、持続可能な地域を作るところとつながらない。お金は入るかもしれないけど人が帰っていなくなったら意味ないのではないかと思う。どうすればいいかと具体的なものはなかなか出せないが、イベントを開くというのは非常に難しいところ。イベントをするということは大事だけど、イベントを開いた先に何を見出すのかというのが明確に見えてこない。イベントをする目的がお金なのか、地域活性化とはいえ人は帰っていくし、人がいないからお金も集まらないし、イベントを開くのもつらくなっている。何か焼け石に水じゃないかと思う。
- 〔委員〕 子どもまつりをやってきたのは、そこに住んでいる子どもたちに楽しんでほしいという思いや国府で生まれ育ってよかったなという思いを持ってほしいというところからスタートした。

〔委員〕 子どもまつりは子どもの頃とても楽しみにしていた。今いる子どもたちは大事にすべきでそのためのイベントはどんどんしていったって欲しい。最近の人はタイムパフォーマンスが大事みたいな感じでいて、頑張れば稼げるけど鳥取では思いつかない。自分は農業で農家の人を儲けさせたい。スマート農業の導入もそうだし、土地が余っているならその機械の試験場として使って金をもらったらいいし、面白いと思う。お米作りだって現地の人に教われるし、そういうのは減ってきているかもしれないけど、間に合わなくなる前にやっていきたい。

観光資源は少なく、資料1に観光について神社というのがあったが、国府と言えは宇倍神社で、鳥取と言えは因幡の白兎となると白兎神社となる。砂丘とか観光はそっちの地域に任せておいて、観光客がたくさん来た時、地域では対応できないし、事後処理ができないと思うので、国府は観光に特化しなくていいのではないかなと思う。

〔委員〕 観光目線で行けば鳥取は砂丘。そこから広げていこうというのが鳥取市の考え方。注目されているところは、やはり地元の人がそこをしっかりと愛して、関わっていつているというのが徐々に伝わってきている。ただ来てくださいというよりは自分たちがしっかりその地域を盛り上げようとしているのを伝えること。

〔委員〕 雨滝で滝を見て、その後食事といっても豆腐はもう売ってない。ドーナツはマルイで売っているし、お土産物も雨滝の滝の傘でなくてもいい。

〔事務局〕 農業について、鳥取市にはふるさと就農舎があり新規就農者の技術習得支援施設となっていて、実際に地域で農業をしておられる人に教わりながら技術を習得している。生活費の支援や宿泊施設もあり農政企画課が担当課でやっている。実際に卒業生で今こんなに活躍してくださっているという事例があり、せっかく国府にふるさと就農舎があるのでそういうところと連携することも必要だと思う。お米の話が出ているが、お米が作りたい人は少ないと聞いている。梨とかぶどうとかが割とおられるようだが、米は今注目されているのでこれから増えてくるかもしれない。その辺も連携をとりながら、就農舎で学ばれた方が国府で活躍してもらえるような働きかけができないかなと思う。

〔委員〕 住むところがないので、前回も発言したが小学校とかを一度壊して住むところにして、農業される人は住めますとか体育館は農機具倉庫として使えますとかにしたら面白い。補助は出るのか。

〔委員〕 無理やりだが、米に補助が出たらいいのになと思う。国府町内だけでもそれで回せないか。

〔委員〕 打ち上げ花火的なイベントは反対。農業はこの中山間地域においては地域のハブとなっていて、農業について期待されると事業所として責任を感じる。耕作放棄地についても大きな農業者は大規模化できるが、古くからの段々畑だったり、水が来ないような作りにくい農地については依頼があっ

ても受けるのが難しい。地域おこし協力隊でも耕作放棄地で農業をする活動をしているが、米は投資額が全く違っていて、新規就農者が手を出しにくいのが現状。国府の特色を生かした産業は農業であるため、頑張らないといけないし、ここで生活している私たちが問われている。

〔委員〕 耕作放棄地が増えているというのは、個人の農家がそこを守っていくことができないというのが一番の大きな問題。耕作放棄地になっているところを誰がやってくれるのかとして、今の農業者さんも本当にいっぱいになっている。これだと言いきってしまうし、これまで守ってきたものも耕作放棄地になってしまうという危険性をはらんでいる。自分で作って売って生活にできるという農業はもう無理だと思うので、公務員的な組織を作って若い人にどんどん就労してもらおう。そこに住んでもらって、仕事して働いて給料をもらうという考えもあるのではないだろうか。個人で頑張っている人への個別な補助もあればいいと思う。未来プランの実施計画については、イベントとかこれまであったものなので、粛々としてもらって、未来に向かった話をどんどんしていったほうがいい。

〔委員〕 公務員的な話があったが、何がいいかというと安定した収入だと思う。流通ルートの話になるが、国府のお米が商品としてある程度ブランド化できたら、お店と契約して定期的に流通できたり、個人的にもサブスク契約できたりする。「雨滝から流れるおいしい水でお米作っています」みたいな宣伝をして、お米だから見慣れていて華がないというわけではなく、SNS とかで面白そうな発信ができればいい。SNS 主体でいけばいいと思うし、流通ルートは確保できそう。

〔会長〕 国府地域の特色として、ただ農業対策ではなくて、そこには当然人が関わっているんで、関わる周辺の人材だとか生活だとか、教育をすることでそういった農業を活かした将来的なビジョンかなと思うが、これからどう集約していけばいいと思うか。

〔委員〕 今日の会議の目的は、事業を確認して意見を言っていくのか、これから先のビジョンを示して独自の財源があって施策を立ち上げるとかを考えていくということまでを視野に含めて議論していくのか。

〔会長〕 両方。今日、未来プランの実施計画の事業について報告してもらったのは会議の役割として進捗の管理があるから。それを踏まえて課題を抽出する。課題だと思っていても実際に困っているのは数名だけだったりするが、国府として本当にいろんな課題がある中で、この会議でどういうところまで考えていくのかもあるが、何か予算はつけることができるようになるのか。

〔事務局〕 確約できないが、未来プランを進めていき、地域で意見がまとまってこんな事業が必要だとなれば、支所も努力して予算要求に持っていけたらいいなとは思いますが、予算がつくかどうかは保証できないところ。

〔委員〕 支所からの予算要求はどんな流れになるのか。

- 〔事務局〕 支所から本課にあげる流れだが、行財政改革課の査定が入り、話をしている中でこれを進めていきたいと思いますということになれば予算が総務部長の段階に行き、市長の段階にという流れになるが、どの段階で削られたり、できないと言われるかははっきりと言えないが順を追って予算化される。
- 〔委員〕 例えば 100 万円、支所で自由に使っていいという予算はないか。地域振興の話から農業の話もしているが、農業担当の方でまた予算の話をしていかないといけない。せっかくここでいい議論ができて、地域振興じゃないよねの一言で終わってしまったら、ここで議論できる内容は言ってみればどんなイベントしますくらいしかない。せっかくこれからどのように進めていこうかという流れになっているのに、制度的なものでつぶされてしまったら面白くない。
- 〔事務局〕 支所で自由に使える予算は残念ながらない。予算の確約もできないが、市の予算がなくてもできることはあるかもしれない。
- 〔委員〕 そういう制限のある中でどこまでまじめに議論するかという話になる。
- 〔委員〕 自分自身も迷走していて着地点が不明。お金と人が必要な中、好きに発言していいのか、委員として責任をどう果たしていけばいいか。
- 〔委員〕 なかなかまとまりのない中で次にどうつなげていくかというところだが、将来のビジョンを積み上げていき検討していくことか。
- 〔委員〕 どこを目指すのか。ただ単に事業の進捗を見るだけの会だと何かつまらない思いがするが、この会はそれだけの会か。ゴールが見えないというか、検証してその先にあるものを作っていきたいと思いますということか。
- 〔委員〕 事業自体は単発なもので、チェックすることはいいこととは思いますが、これまでやってきた事業ばかりで正直マンネリ化というか、発展が見えないところも正直ある。
- 〔会長〕 ゴールが見えないとあったが、ないと思う。
- 〔委員〕 前からやってきたことばかりで、これらの事業が地域資源を活かした賑わいづくりにつながっていくのだろうか。何かもう一つ付け加えないとつながっていかないのかなと思う。国府にある観光資源は人のいない観光資源で、国庁跡もそうだが、そこを活かしたことを考えるのかって考えた時に、国府町はそれこそ人がいないから難しいんじゃないかとか、掘り下げていけばいくほど問題点が上がってくる気がする。
- 〔会長〕 皆さんの意見を踏まえて次回は将来的な議論ができるような形で提案ができたらと思う。

4 閉会

次の開催日時

令和 7 年 1 1 月 2 6 日（水） 1 3 : 3 0 ~

国府地域交流会館